



令和3年9月27日
第二管区海上保安本部

海図の歴史から海を学ぼう！ ～海図150周年パネル展を宮城、岩手県にて開催！～

令和3年（2021年）は、明治4年（1871年）に我が国が単独で、近代技術をもって、海洋調査から海図作製までを一貫して行う本格的な水路業務を開始してから、150周年を迎える記念の年です。

第二管区海上保安本部ではこれを記念し、宮城県の東北歴史博物館及び岩手県のシープラザ釜石において、海図150周年パネル展を開催しますのでお知らせいたします。

今回のパネル展では、明治初期から海図製作における150年の歩みや最新の調査技術による海洋調査などについて紹介いたします。

○開催場所、開催期間

- (1) 東北歴史博物館内エントランスホール（宮城県多賀城市高崎1-22-1）
10月1日（金）～10月10日（日） 午前9時30分～午後5時
- (2) シープラザ釜石イベントフロア（岩手県釜石市鈴子町22-1）
10月12日（火）～10月26日（火） 午前9時～午後7時
※シープラザ釜石では初めての開催。

○主な展示内容

- ・海洋情報部150年のあゆみ
- ・初代水路局長 やなぎならよし 柳 檜悦について
- ・水路部元測量課長 たやまり さぶろう 田山利三郎博士について
- ・日本近海深淺図
- ・東北管内の主要港における海図の変遷
- ・日本周辺3D海底地形図
- ・「海図150年の歩み～黎明から近未来まで～」のビデオ放映



初代水路局長 柳檜悦

○その他

海図150周年に関する情報はこちらのHPでもご覧になれます。

第二管区海上保安本部海洋情報部HP<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/150kinen/>

水路記念日

明治4年（西暦1871年）9月12日（旧暦7月28日）に兵部省海軍部に水路局（後の水路部、現在の海洋情報部）が設置されたことを記念してこの日を水路記念日としています。この水路局設置により我が国の本格的な海洋調査・海図作製が始まりました。

※海図は、船舶が安全かつ効率的に航海できるよう、水深、暗礁などの水路の状況、灯台などの航路標識、船舶の運航に必要な情報を掲載している「海の地図」です。

展示パネル一例

海図第一号 「陸中國釜石港之圖」

この図は、明治5年（1872年）に我が国初の海図として発行された図です。

釜石港が海図第一号として選ばれた理由は、釜石港が東京・函館間の中継補給地点として重要な港であったこと、当時高炉による銑鉄の生産に成功して官営製鉄所建設の直前であったことから、入港船舶の安全と利便を図るためであったと考えられています。



日本近海深淺図

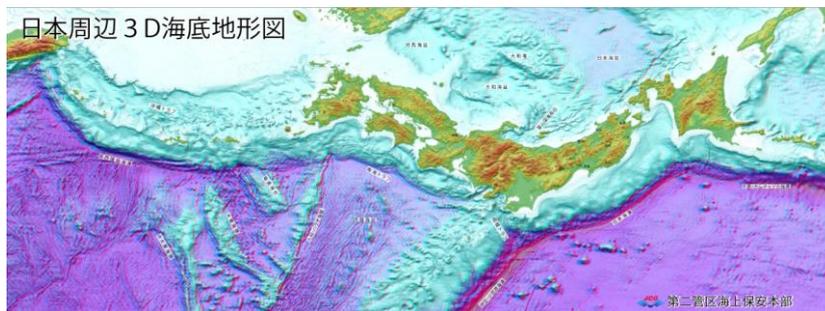
水路部（現海洋情報部）の測量課長であった田山利三郎博士が中心となって編集し、1952年（昭和27年）3月刊行された海底地形図。田山博士は、「日本近海深淺図」の解説論文を「水路要報」に掲載し、フィリピン海、北西太平洋の海底地形の詳細を説明しました。

この「日本近海深淺図」などを参考に、米国の海洋地質学者H. H. ヘスやR. S. ディーツが海洋底拡大説を提唱し、プレートテクトニクスに発展していきました。



日本周辺3D海底地形図

海洋情報部の大陸棚調査を主として500メートルメッシュで表現した海底地形図。赤、青の立体メガネを使用することで、地形を3次元的に迫力ある地形として見ることができます。



今後のパネル展の案内

開催場所	市町村	期間
山形県立図書館	山形県山形市	11月2日（火）～12月19日（日）※予定
福島県立図書館	福島県福島市	11月5日（金）～12月1日（水）※予定